



2025年度 第2四半期(中間期)
決算説明資料

 三菱ガス化学株式会社

2025年11月10日

証券コード
4182

 三菱ガス化学株式会社



本日の決算説明のポイント



1. 2025年度 第2四半期実績		前年同期比
売上高	3,616億円	▲264億円
営業利益	251億円	▲86億円
親会社株主に帰属する 中間純利益	▲279億円	▲526億円

↓

建設工事一時中断を発表したオランダMXDAプラントについて、固定資産の減損損失(▲502億円)を第2四半期に特別損失として計上。
※当社連結子会社MGC Specialty Chemicals Netherlands B.V. (MSCN社)にて計上

売上高	<div><div>+</div> BT材料の販売数量増</div> <div><div>-</div> ● ポリカーボネート(PC)・メタノール市況下落 ● オルソキシレン(OX)チェーンからの事業撤退</div>
営業利益	<div><div>-</div> ● 無機化学品の能力増強に伴う固定費増 ● メタキシレンジアミン(MXDA)系製品の損益悪化</div>

2. 2025年度 通期業績予想		前回予想比
売上高	7,300億円	▲200億円
営業利益	440億円	▲20億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲170億円	▲530億円

売上高	<div><div>+</div> BT材料の販売数量増</div> <div><div>-</div> ● PCの市況下落 ● 無機化学品の販売数量減</div>
営業利益	<div><div>+</div> BT材料の販売数量増</div> <div><div>-</div> ● MXDA系製品の損益悪化 ● メタノール市況下落による採算悪化</div>
配当方針	中間配当 50円* (確定) 期末配当 50円* (予想) * いずれも前回予想から変更無し

※ 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。
三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 2

まず本日の決算発表のポイントについてご説明いたします。

1点目の2025年度 第2四半期実績につきましては、BT材料の販売は好調に推移しましたが、ポリカーボネートやメタノールの市況下落、無機化学品の固定費の増加、MXDA系製品の損益悪化などより、対前年同期比で減収減益となりました。

また、オランダMXDAプラントは、9月17日公表の通り事業環境の悪化から建設工事を一時中断しております。今決算において回収可能性を検討した結果、約500億円の減損損失を特別損失として計上しております。

この結果、当期は純損失を計上する見込みとなり、株主・投資家の皆様にご心配をおかけすることを遺憾に思っております。本プロジェクトの状況につきましては、後ほどご説明致します。

2点目の 2025年度 通期業績予想につきましては、MXDAでの減損損失計上その他、ポリカーボネートやメタノール等の市況下落や、無機化学品での販売数量減を織り込み、連結売上高で200億円、営業利益で20億円、当期純利益で530億円の下方修正を行いました。

なお、配当方針については前回予想から変更無く、期末配当50円を予定しております。

これらの詳細について後ほど説明させていただきます。

1 | 2025年度 第2四半期(中間期) 決算概要

2 | 2025年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

はじめに

「2025年度 第2四半期(中間期) 決算概要」

次に、「2025年度業績予想」、

続いて「セグメント別 業績概要」という順でご説明いたします。

1 | 2025年度 第2四半期(中間期) 決算概要

2 | 2025年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

まず、2025年度 第2四半期業績についてご説明いたします。

2025年度 第2四半期決算 業績サマリー



売上高：電子材料は販売数量が増加したが、円高に加え、エンジニアリングプラスチックス及びメタノール市況の下落、OXチェーンからの事業撤退等により減収

営業利益：上記市況下落に加え、無機化学品での能力増強に伴う固定費の増加、MXDAとその誘導品での需要低迷と競争環境の激化、円高等により減益

経常利益：為替要因等でのメタノール持分法損益悪化により減益

中間純利益：経常利益の減益に加え、オランダMXDA製造子会社MSCN社における固定資産の減損損失計上により純損失

単位:億円	2024年度 2Q累計	2025年度 2Q累計	増 減		2025年度 2Q累計 前回予想*
			金額	%	
売上高	3,881	3,616	▲264	▲6.8	3,600
営業利益	337	251	▲86	▲25.5	240
持分法利益	59	29	▲29	▲50.3	33
経常利益	374	314	▲59	▲15.9	270
親会社株主に帰属する中間純利益	247	▲279	▲526	-	200
* 2025年8月7日公表					
一株当たり中間純利益(円/株)	123.47	▲143.48			102.71
為替レート(JPY/USD)	153	146			

5ページ、2025年度第2四半期の業績サマリーを示しております。

売上高は、電子材料は販売数量が増加しましたが、円高に加え、エンジニアリングプラスチックスおよびメタノール市況の下落、オルソキシレンチェーンからの事業撤退等により、▲264億円減収の3,616億円となりました。

営業利益は、無機化学品での能力増強に伴う固定費の増加、MXDAとその誘導品での需要低迷と競争環境の激化、円高等により、▲86億円減益の251億円となりました。

経常利益は、為替要因等でのメタノール持分法損益悪化により、▲59億円減益の314億円となりました。

中間純利益は、オランダMXDA製造子会社MSCN社における減損損失計上により▲526億円減益の▲279億円の純損失となりました。

2025年度 第2四半期 営業外損益・特別損益



単位:億円	2024年度 2Q累計	2025年度 2Q累計	増 減
営業外損益	36	63	+26
持分法による投資損益	59	29	▲29
金融収支	10	25	+15
為替差損益	▲19	15	+35
その他	▲13	▲7	+5
特別利益	11	54	+43
固定資産売却益	-	35	+35
投資有価証券売却益	1	10	+9
補助金収入	9	1	▲7
その他	-	6	+6
特別損失	▲16	▲510	▲493
減損損失	▲1	▲502	▲500
貸倒引当金繰入額	▲1	▲3	▲2
固定資産圧縮損	▲6	-	+6
その他	▲7	▲4	+2
特別損益合計	▲5	▲456	▲450

差異の内容

- 持分法損益
GEC ▲22
機能化学品 ▲7

差異の内容

- 減損損失 ▲500
MSCN社での
MXDAプラント減損 等

※ 本表の増減は対損益増減を示しております。

6ページに、営業外損益・特別損益を記載しております。

まず営業外損益につきまして、持分法損益は、海外メタノール生産会社の損益悪化などから減益となりましたが、金融収支や為替差損益の改善などにより、26億円の増益となりました。

続いて、特別利益は、固定資産売却益や投資有価証券売却益などにより、合計で43億円増益となりました。特別損失は、MSCN社の減損損失計上などにより、合計で493億円減益となっております。

プロジェクトの狙い:

MXDA最大市場 欧州での生産拠点確保

- MXDAは、メタキシレン誘導品の一つであり、エポキシ樹脂硬化剤、ポリアミド、イソシアネート等が主な用途。
- 環境負荷の低い風力発電用ブレードの補修材も新規用途として評価が進んでおり、今後も安定的な市場拡大が見込まれる。現在、当社は国内2拠点にて生産。



- 2021年9月 最大市場である欧州(オランダ・ロッテルダム工業地帯)にて年産20,000MTのMXDA製造設備を建設する計画を公表。
- 連結子会社 MGC Specialty Chemicals Netherlands B.V. (MSCN社)にて当初2024年7月生産開始を目指し、建設工事を進めてきた。

建設工事一時中断・減損計上

- 昨年度実施した工事業者の切り替え等による工期遅延に加え、ロシア・ウクライナ紛争に端を発した建設費や人件費の高騰、MXDA市場における競争環境の変化等により、急速に同プロジェクトの事業環境が悪化。
- かかる状況を踏まえ、[2025年9月17日開催の当社取締役会において同建設工事の一時中断を決議・公表](#)。
- 工事一時中断を受けて、本プロジェクトの経済性、回収可能性について総合的に評価した結果、[2025年度2Q連結決算にてMSCN社固定資産に対し、502億円の減損損失を計上](#)。
※ 個別決算において299億円の関係会社株式評価損、219億円の関係会社事業損失引当金繰入額を計上しているが、連結決算においては消去。
- 現在、工事継続の是非も含め、MXDA事業全体の収益改善に向けて、あらゆる選択肢の検討を進めている。

7ページに、今回減損損失を計上したMXDA欧州プラントについて記載しております。

この欧州プロジェクトの狙いは、これまで国内2拠点での生産体制で供給に制約があったMXDAについて、最大市場である欧州に新たなプラントを建設し、当社として安定的かつ十分な供給体制を整備することにあります。

本プロジェクトは、当初2024年7月の生産開始を目指し、建設工事を進めてきましたが、ロシア・ウクライナ紛争をきっかけとしたインフレに加え、工事業者の切り替え等による工期遅延、市場における競合との競争激化等により、急速に同プロジェクトの事業環境が悪化しております。

このような状況を踏まえ、本年9月17日に建設工事を一時中断することを当社取締役会にて決議、公表しております。

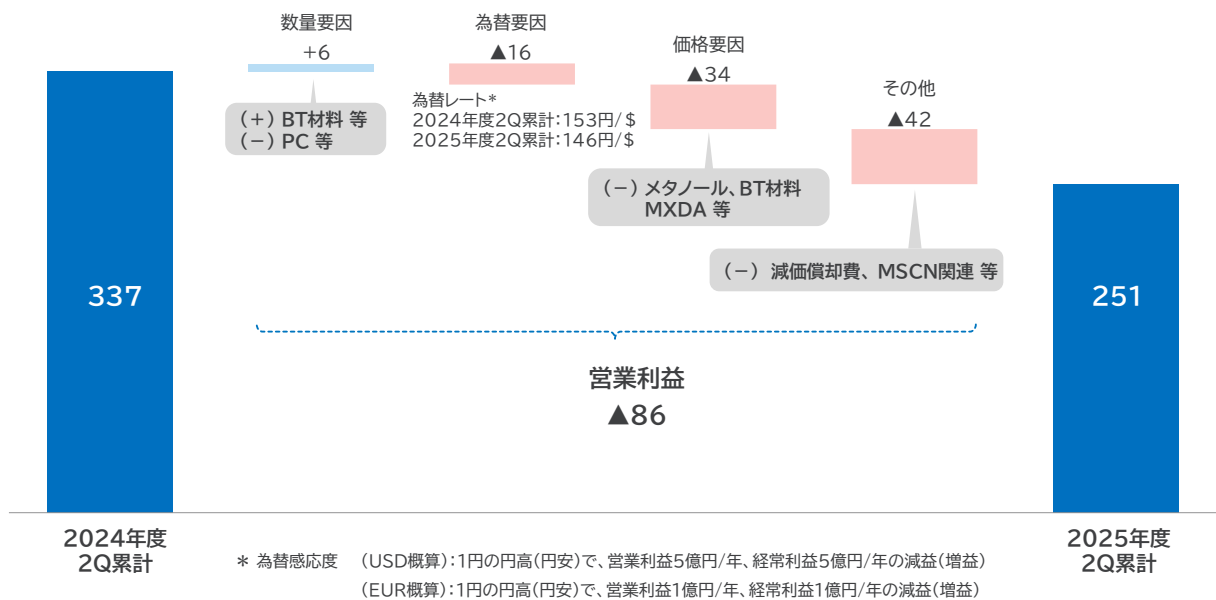
工事中断を受けて、プロジェクトの経済性、回収可能性について総合的に評価した結果、今第2四半期において、502億円の減損損失を計上することとなりました。

今後の方針につきましては、工事再開、プロジェクト撤退、それ以外の選択肢も含め、MXDA事業全体の収益改善を目指し、検討を進めております。今後公表すべき事項が生じた場合には速やかに公表いたします。

2025年度 第2四半期 営業利益 増減要因(前年度比)



(単位:億円)



8ページは当第2四半期の営業利益の増減要因を前年同期との比較で示しております。数量要因は、BT材料の販売数量の増加、為替要因は、円高の進行による減益、価格要因は、販売価格下落の他、BT材料での品質対応強化に伴うコスト増加が影響しております。

その他要因には、償却費のほか、MXDA欧州プラント関連費用の増加などが含まれております。

1 | 2025年度 第2四半期(中間期) 決算概要

2 | 2025年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

続きまして、2025年度 業績予想についてご説明いたします。

2025年度 通期 業績予想



- 第2四半期に計上した減損損失及び直近の事業動向を踏まえ、通期業績予想を下方修正、通期純損失を見込む
- 営業利益は、BT材料の販売数量増を見込むが、MXDA及びその誘導品での損益悪化、半導体向け薬液での販売数量減少等により減益を予想

単位:億円	2025年度 前回予想*1	2025年度 今回予想	増 減		2024年度 実績
			金額	%	
売上高	7,500	7,300	▲200	▲2.7	7,735
営業利益	460	440	▲20	▲4.3	508
経常利益	500	500	-	-	603
親会社株主に帰属する当期純利益	360	▲170	▲530	-	455
*1 2025年8月7日公表					
一株当たり当期純利益(円/株)	184.87	▲87.30			228.93
ROE (%)	5.4	-			6.9
ROIC*2 (%)	4.2	3.9			6.4
為替レート(JPY/USD)	145	146			153
*2 ROIC=(営業利益-法人税等+持分法損益)/投下資本					

10ページは通期業績予想の概要となります。

前回予想比で、売上高は200億円減収の7,300億円、営業利益は20億円減益の440億円、経常利益は変わらず500億円、当期純利益は530億円減益の170億円の損失を見込んでおります。

－ 対前回予想:売上高▲200億円、営業利益▲20億円、経常利益は据え置き

営業利益の主な増減要因

- (－) MXDA及びその誘導品での損益悪化、MSCN社稼働前提変更による損益悪化
- (－) メタノール市況下落
- (－) 半導体向け薬液において一部顧客での需要回復の遅れ
- (＋) BT材料の販売数量増加
- (＋) 一般管理費の減少

－ 期末配当予想:50円(前回予想*を据え置き)

* 2025年8月7日公表

■為替前提(下期): 1ドル145円(前回予想から据え置き)、1ユーロ170円(前回予想から5円円安)
(為替感応度(USD、概算):1円の円高(円安)で、営業利益5億円/年、経常利益5億円/年の減益(増益))
(EUR、概算):1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)

■原油価格前提(下期): 70ドル/bbl. (前回予想と同じ)
(原油感応度(USD、概算):1ドル/bbl.の上昇(下落)で、3億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず)

11ページに、通期業績予想のポイントを示しております。

売上高、営業利益につきましては、BT材料での数量増を見込んでいるものの、メタノール市況の下落やMXDA系製品の損益悪化、需要回復遅れによるEL薬品の数量減を予想し、減収減益を見込んでおります。

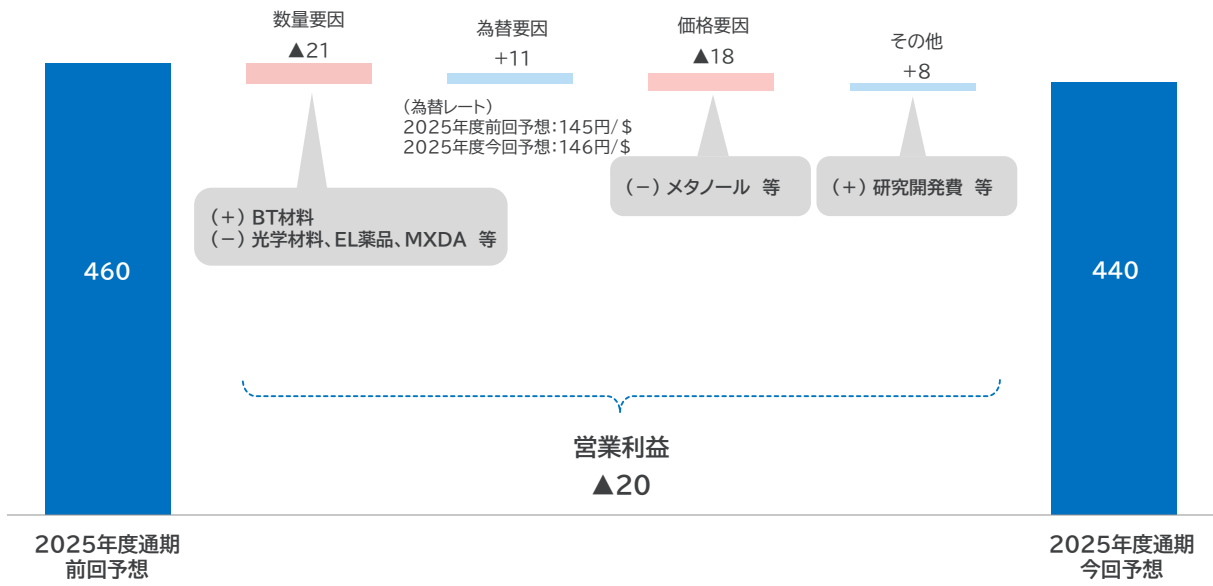
経常利益は、為替差損益の改善等も考慮し、前回予想を据え置いております。

なお、期末配当については、前回予想を据え置き、50円を予定しております。

2025年度 通期 営業利益 増減要因(前回予想比)



(単位:億円)



12ページは、前回予想比での、営業利益増減要因を、滝グラフで示しております。
後ほど、ご参照願います。

- 下期予想:メタノールは市況上昇により損益改善を見込むが、上期好調であったBT材料の反動減や、定修費用や償却費等の固定費増加等により営業利益にて減益を予想。
- 当期純利益は、上期減損計上の影響により増益を見込む。

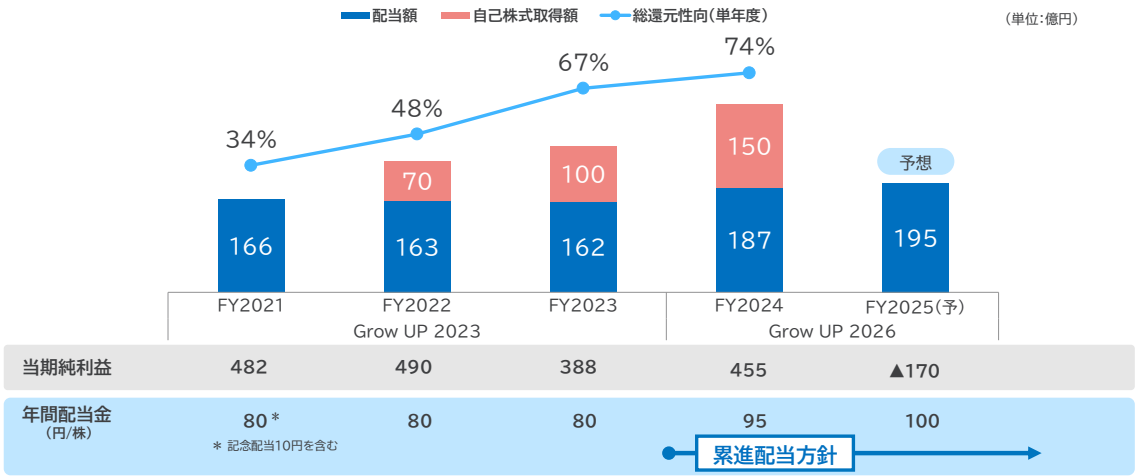
単位:億円	2025年度上期実績	2025年度下期予想	差異
売上高	3,616	3,683	+66
営業利益	251	188	▲62
持分法利益	29	25	▲4
経常利益	314	185	▲129
親会社株主に帰属する当期純利益	▲279	109	+388

13ページをご覧ください。
2025年度の上期実績、下期予想、それらの差異を示しております。

下期については、メタノール市況上昇による損益改善を見込みますが、上期好調であったBT材料の反動減や、定修費用や償却費等の増加により営業減益を予想しております。当期純利益は、上期減損損失計上の影響により増益を見込んでいます。

2025年度は通期純損失を見込むも、引き続き財務健全性は確保
中計期間中の株主還元方針*に変更は無く、前回予想(中間50円、期末50円)を据え置き
引き続きBSコントロールを実施し、資本コストの低減および資本収益性の向上を目指す

* 累進配当方針、総還元性向 50%目安、DOE(自己資本配当率)目標値 3%



14ページをご覧ください。

資本政策/株主還元について説明致します。

今期の業績予想は通期で純損失を見込んでいますが、当社として一定の財務健全性は確保出来ていると考えております。

現中計期間中の株主還元方針である累進配当方針、総還元性向50%目安、DOE3.0%に変更は無く、配当予想につきましても前回予想を据え置いております。

今後もBSコントロールの観点から資本政策および株主還元を検討し、資本コストの低減や資本収益性の向上を目指してまいります。

1 | 2025年度 第2四半期(中間期) 決算概要

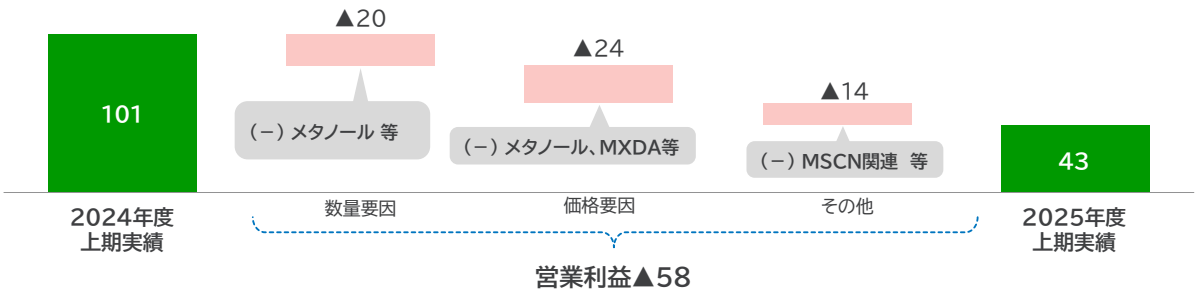
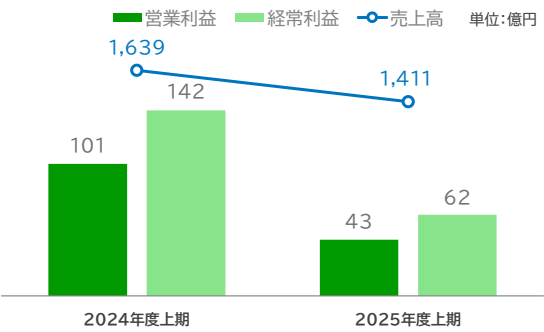
2 | 2025年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

続いて、セグメント別業績概要をご説明します。

2025年度上期実績

売上高：
メタノール市況の下落やOXチェーンからの事業撤退等により減収
営業利益：
メタノールやMXDAおよび誘導品での損益悪化、円高等により減益
経常利益：
為替要因等によるメタノール持分法損益悪化により減益
特別損失：
MSCN社における固定資産の減損損失計上
【営業利益差異要因】



16ページでは、グリーン・エネルギー＆ケミカル事業についてご説明いたします。
以降GEC(ジーイーシー)と表現させていただきます。

上期実績について、右上のグラフの通り、売上高はメタノール市況の下落やOXチェーンからの事業撤退等により減収となりました。営業利益は、メタノールやMXDAおよび誘導品での損益悪化、円高などにより、減益となりました。
また経常利益につきましても、為替要因等により海外メタノール生産会社の持分法利益が悪化し、減益となっております。

下段には、前年同期比での営業利益差異要因を、滝グラフで示しております。
後ほど、ご参照願います。

単位:億円	2024年度 上期実績	2025年度 上期実績	増減
売上高	1,639	1,411	▲ 228
天然ガス系化学品	1,195	1,045	▲ 149
芳香族化学品	449	368	▲ 81
調整	▲ 4	▲ 2	+ 2
営業利益	101	43	▲ 58
天然ガス系化学品	77	30	▲ 46
芳香族化学品	23	12	▲ 11
調整	0	0	▲ 0
経常利益	142	62	▲ 80
天然ガス系化学品	110	40	▲ 70
芳香族化学品	32	22	▲ 10
調整	0	0	▲ 0

※ 内訳は、主要製品群別セグメントを記載

三菱ガス化学株式会社

		2025年度上期実績 (2024年度上期実績比)	
天然ガス系化学品	メタノール	➡	メタノール市況の下落により減収減益 (前期333 ^{ドル} /MT→今期309 ^{ドル} /MT)
	メタノール・ アンモニア系化学品	➡	アンモニアおよびMMAの市況は下落したものの、固定費減少等により、前期並みの損益
	エネルギー資源・ 環境事業	➡	発電用LNGの販売数量減少と原油価格下落等により減収減益
芳香族化学品	MXDA*、 芳香族アルデヒド、 ポリマー材料 * 誘導品含む	➡	芳香族アルデヒドは堅調に推移したもの、MXDAおよび誘導品において欧米および中国向けの需要低迷、競争環境の激化、固定費の増加等により減収減益
	キシレン分離/誘導品	➡	高純度イソフタル酸(PIA)は市況下落により減益となったが、OXチェーン事業撤退に伴う固定費改善等により増益

17ページでは、GECの上期実績について、前年同期比での業績動向を、主要事業別に示しております。こちらも後ほど、ご参照願います。

単位: 億円	2025年度 上期実績	2025年度 下期予想	増減
売上高	1,411	1,468	+ 57
天然ガス系化学品	1,045	1,084	+ 38
芳香族化学品	368	386	+ 18
調整	▲ 2	▲ 2	+ 0
営業利益	43	37	▲ 5
天然ガス系化学品	30	33	+ 2
芳香族化学品	12	4	▲ 8
調整	0	0	▲ 0
経常利益	62	41	▲ 20
天然ガス系化学品	40	35	▲ 4
芳香族化学品	22	6	▲ 15
調整	0	▲ 0	▲ 0

※ 内訳は、主要製品群別セグメントを記載

三菱ガス化学株式会社

		2025年度下期予想 (2025年度上期実績比)	
天然ガス系化学品	メタノール	➡	イラン品への米国制裁強化や冬場の原料天然ガス供給制限などにより、市況上昇を予想(上期実績309ドル→下期予想325ドル)
	メタノール・アンモニア系化学品	➡	需要回復を想定するも、下期に予定されているMMA系の定修等により減益を予想
	エネルギー資源・環境事業	➡	発電用LNG販売による増収は見込まれるが、ヨウ素事業での固定費増加等により減益を見込む
芳香族化学品	MXDA*、芳香族アルデヒド、ポリマー材料 * 誘導品含む	➡	中国・欧米向けの需要回復と価格対応による数量増を見込むが、定修により減益を予想
	キシレン分離/誘導品	➡	高純度イソフタル酸(PIA)の市況低迷は継続する見込み。定修も織り込み減益を予想

続きまして18ページでは、下期予想について示しております。

メタノールは、イラン品への米国制裁強化や冬場の原料天然ガス供給制限などにより、市況上昇を見込み、増益を予想しております(上期309ドル→下期予想325ドル)。

メタノール・アンモニア系化学品は、需要回復を想定しておりますが、下期に予定されているMMA系の定修等により減益を予想しております。

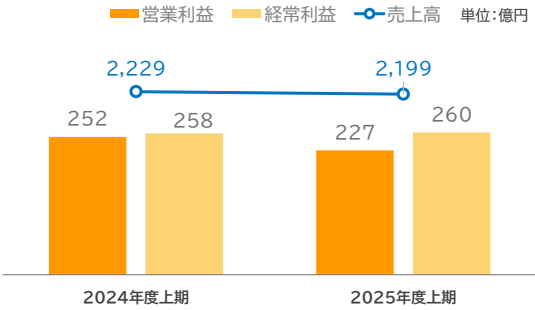
エネルギー資源・環境事業は、発電用LNG販売による増収は見込まれますが、ヨウ素事業での固定費増加等により減益となる見通しです。

MXDAや芳香族アルデヒドは、中国・欧米向けの需要回復と価格対応による数量増を見込んでおりますが、定修により減益を予想しております。

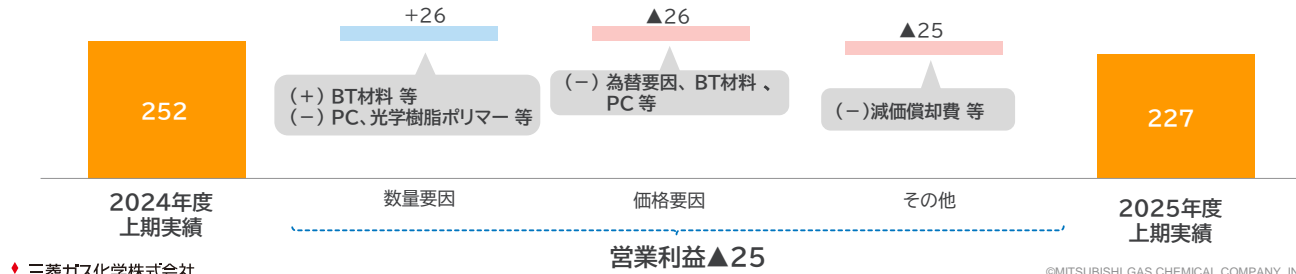
2025年度上期実績

売上高：
BT材料等、電子材料の販売数量は増加したものの、エンジニアリングプラスチックの市況下落や円高等により減収

営業利益：
上記各要因に加え、無機化学品の固定費の増加、BT材料での品質対応強化に伴うコスト増加等により減益



【営業利益差異要因】



続いて19ページ、機能化学品事業についてご説明します。

売上高は、BT材料等、電子材料の販売数量増加が増収要因となりましたが、エンジニアリングプラスチックの市況下落や円高等により、減収となりました。

営業利益は、減収の各要因に加え、無機化学品の固定費の増加、BT材料での品質対応強化に伴うコスト増加等により減益となりました。

下段に、機能化学品における当第2四半期の営業利益の増減要因を、前年同期との比較で示しております。後ほどご参照願います。

単位:億円	2024年度 上期実績	2025年度 上期実績	増減
売上高	2,229	2,199	▲ 29
機能化学品	1,866	1,740	▲ 126
特殊機能材	362	459	+ 96
調整	▲ 0	▲ 0	▲ 0
営業利益	252	227	▲ 25
機能化学品	172	127	▲ 44
特殊機能材	79	99	+ 19
調整	0	0	▲ 0
経常利益	258	260	+ 1
機能化学品	168	147	▲ 21
特殊機能材	89	112	+ 23
調整	0	0	▲ 0

※ 内訳は、主要製品群別セグメントを記載

三菱ガス化学株式会社

		2025年度上期実績 (2024年度上期実績比)	
機能化学品	無機化学品	➡	半導体向け薬液における台湾拠点の生産能力増強に伴う固定費の増加、円高影響等により減収減益
	エンジニアリングプラスチック	➡	ポリカーボネートの販売価格下落・販売数量減少による海外拠点の採算悪化により、減収減益
	光学材料	➡	光学樹脂ポリマーの主用途であるスマートフォン向け需要において顧客側の在庫調整による販売数量減少、償却費等の固定費増により減収減益
特殊機能材	電子材料	➡	半導体パッケージ用BT材料において品質対応強化に伴うコスト増加はあったものの、需要回復に加え、一部原材料の供給懸念等を背景として顧客側で在庫確保の動きが生じたこと、また、AIサーバー向け基板材料OPE®の販売数量が増加したことなどから増収増益
	生活衛生ソリューションズ (旧 脱酸素剤)	➡	脱酸素剤において輸出数量が減少したものの、今期から無機化学品より環境衛生薬品を移管した影響等により前年同期並みの損益

20ページでは、機能化学品の業績動向を、主要事業別に示しております。
こちらも後ほど、ご参照願います。

単位:億円	2025年度 上期実績	2025年度 下期予想	増減
売上高	2,199	2,194	▲ 4
機能化学品	1,740	1,746	+ 5
特殊機能材	459	448	▲ 10
調整	▲ 0	▲ 0	+ 0
営業利益	227	177	▲ 49
機能化学品	127	88	▲ 39
特殊機能材	99	89	▲ 10
調整	0	▲ 0	▲ 0
経常利益	260	167	▲ 93
機能化学品	147	77	▲ 70
特殊機能材	112	89	▲ 23
調整	0	▲ 0	▲ 0

※ 内訳は、主要製品群別セグメントを記載

三菱ガス化学株式会社

		2025年度下期予想 (2025年度上期実績比)	
機能化学品	無機化学品	➡	半導体薬液の需要は回復基調にあるが、新プラント稼働に伴う固定費の増加等を織り込み、減益を予想
	エンジニアリングプラスチック	➡	汎用PCの市況低迷は下期も継続する見込み。加えて、国内拠点における固定費負担増等により減益を予想
	光学材料	➡	光学樹脂ポリマーは堅調な販売を見込む。定修等の影響を見込み、減益を予想。
特殊機能材	電子材料	➡	上期好調の反動減により減益を予想。品質対応強化に伴うコストは上期比で減少する見込み。タイ拠点の増設プラントは下期より商業運転開始
	生活衛生ソリューションズ (旧 脱酸素剤)	➡	脱酸素剤は、国内は堅調な販売を見込むが、輸出での数量減を見込み、減益を予想

21ページは、下期予想について示しております。

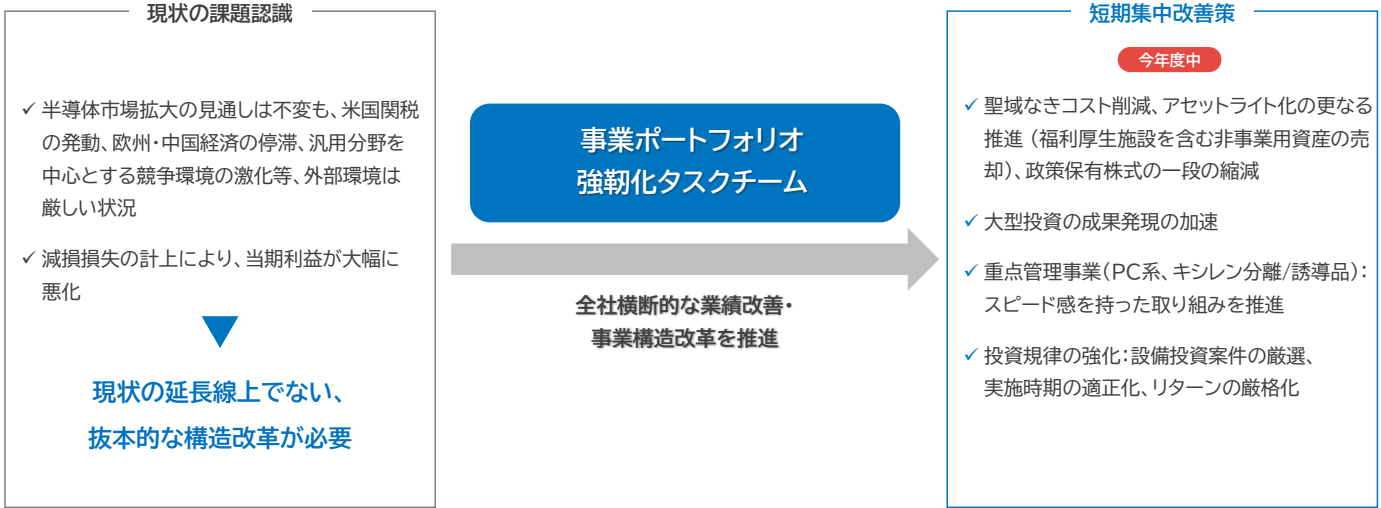
無機化学品は、半導体薬液の需要は回復基調にありますが、新プラント稼働に伴う固定費の増加等を織り込み、減益を予想しております。

エンジニアリングプラスチックは、汎用PCの市況低迷は下期も継続すると見込んでおり、加えて国内拠点における固定費負担増等により減益を予想します。

光学材料は、光学樹脂ポリマーは堅調な販売を見込んでいますが、定修等の固定費増を織り込み、減益を予想します。

電子材料は、品質対応強化に伴うコストは上期比で減少すると見込んでいるものの、上期好調の反動減により減益を予想しております。また、本日ニュースリリースを発表しましたタイ拠点の増設プラントは12月より商業運転開始を予定しております。

- 急速な外部環境の変化・減損損失計上を受け、短期的に業績を改善する取り組みを実施し、更にスピードを上げて事業ポートフォリオ強靱化を推進する必要があると認識
- 短期的な業績改善、事業構造改革を一層推進するために、社長をトップとする「事業ポートフォリオ強靱化タスクチーム」を発足



22ページをご覧ください。

急速な外部環境の変化と、多額の減損損失計上を受けて、当社としては、現状の延長線上でない、抜本的な構造改革を行っていく必要があると認識しております。

そのため、社内に「事業ポートフォリオ強靱化タスクチーム」を発足させ、今後はこのタスクチームが中心となって、全社横断的な業績改善や、スピード感を持った事業構造改革を推進してまいります。

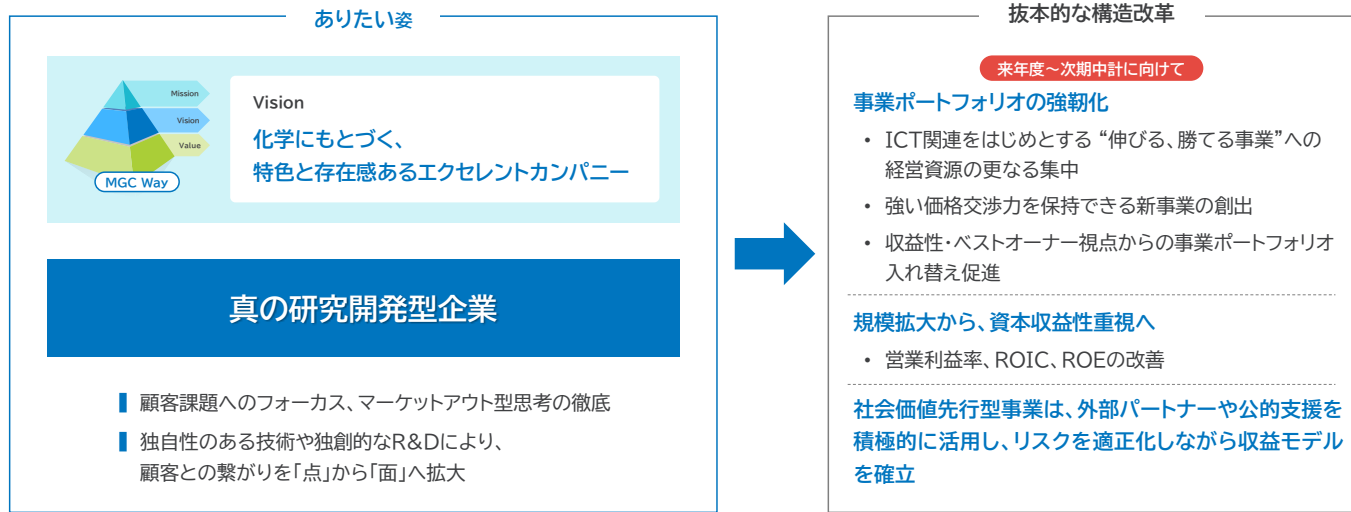
今年度中の達成を目指す「短期集中改善策」としては、聖域なきコスト削減、アセットライト化の更なる推進、政策保有株式の一段の縮減に取り組んでいく他、当社の事業ポートフォリオをより強靱なものとするため、ICT3事業を中心とした大型投資の成果発現、重点管理事業への対応加速を進めてまいります。

投資規律の強化に関しては、例えば、中長期的に成長が見込める製品であっても投資時期として適切であるか、と言った観点等から、より厳しく設備投資案件を審査し、リターンを含めて、より確度の高い案件に絞り込んだ投資を行ってまいります。

抜本的な構造改革・ありたい姿



- MGC Wayで掲げるビジョン「化学にもとづく、特色と存在感あるエクセレントカンパニー」の実現に向け、短期集中改善策に加え、抜本的な構造改革を実行していく
- 各種施策の進捗について、来年6月開催の「経営概況説明会」にて報告予定



23ページをご覧ください。

当社のありたい姿は、Visionとして掲げている「化学にもとづく、特色と存在感あるエクセレントカンパニー」であります。より具体的には、顧客課題にフォーカスし、マーケットアウト型思考をもって顧客と接し、独自性のある技術や独創的なR&Dを通じて、顧客が必要とする製品を幅広く提示出来るような「真の研究開発型企业」を目指しております。

このありたい姿からバックキャストする形で、当社が目指すべき抜本的な構造改革の方向性を定めており、来年度から次期中計に向けて各施策を実施してまいります。

事業ポートフォリオの強靱化につきましては、ICT関連を中心とした“伸びる、勝てる事業”へ経営資源を集中させ、価格交渉力を保持できる新事業の創出、ベストオーナー視点からの事業ポートフォリオ入れ替えを促進してまいります。

加えて、今後は売上高等の規模の拡大ではなく、営業利益率、ROIC、ROE等、資本収益性や効率をより一層重視した経営を進めて参ります。

また、カーボンニュートラル等、社会価値先行型の事業は、市場の立ち上がり時間に時間を要し、収益性の面でも課題が残る案件が多いことから、外部パートナーや政府支援等も積極的に活用し、リスクを適正化、しっかり収益が上げられる事業モデルとすることを求めてまいります。

これらの施策の進捗につきましては、来年6月開催予定の「経営概況説明会」にて報告させて頂く予定です。

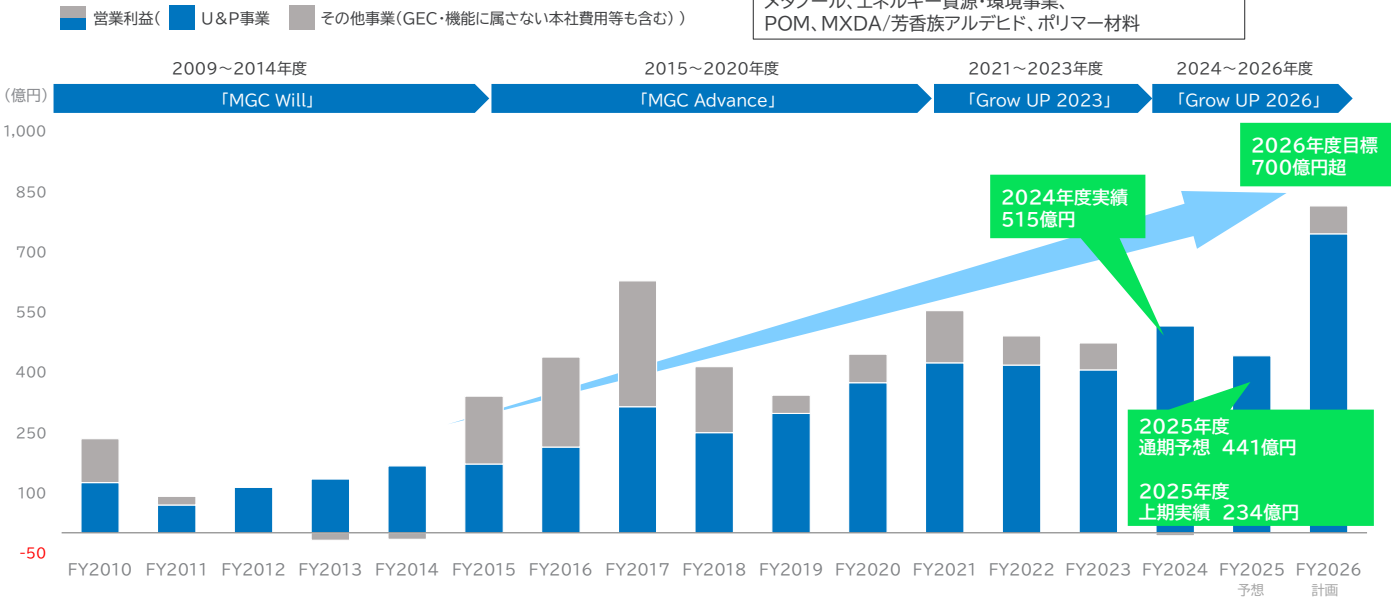
Appendix

Uniqueness & Presence(U&P)事業の営業利益推移



成長ドライバーであるICT3事業を中心に、現中計期間に再拡大

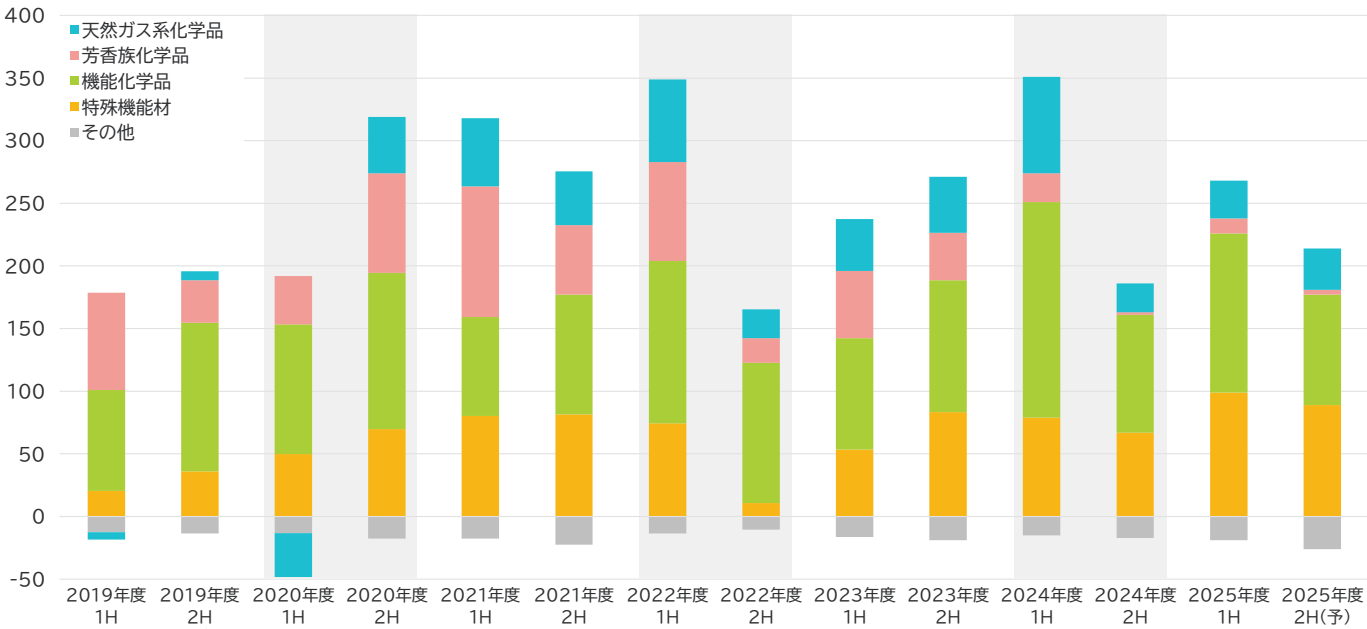
U&P事業: 中計「GrowUP2026」において経営資源を優先的に配分すべきと評価した以下の事業
電子材料、無機化学品(EL薬品等)、光学材料、メタノール、エネルギー資源・環境事業、POM、MXDA/芳香族アルデヒド、ポリマー材料



主要製品群別 営業利益推移



(億円)



※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

三菱ガス化学株式会社

セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2024年度実績			2025年度(前回予想)*			2025年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期(予)	通期(予)
売上高	3,881	3,854	7,735	3,600	3,900	7,500	3,616	3,683	7,300
GEC	1,639	1,592	3,231	1,423	1,590	3,013	1,411	1,468	2,880
機能化学品	2,229	2,212	4,441	2,163	2,296	4,459	2,199	2,194	4,393
全社/調整	12	49	62	13	12	26	6	19	25
営業利益	337	170	508	240	220	460	251	188	440
GEC	101	26	127	38	63	102	43	37	81
機能化学品	252	161	413	226	183	410	227	177	405
全社/調整	▲15	▲16	▲32	▲25	▲27	▲52	▲19	▲26	▲46
経常利益	374	228	603	270	230	500	314	185	500
GEC	142	62	205	62	85	148	62	41	104
機能化学品	258	180	439	231	170	401	260	167	427
全社/調整	▲27	▲13	▲41	▲24	▲25	▲49	▲7	▲23	▲31

* 2025年8月7日公表

セグメント別 2024年度及び2025年度 四半期別推移



単位:億円	2024年度実績				2025年度実績	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,881	2,000	1,950	1,904	1,779	1,837
GEC	783	855	804	787	682	728
機能化学品	1,092	1,136	1,134	1,078	1,089	1,110
全社/調整	4	8	10	38	8	▲ 1
営業利益	157	180	115	55	109	141
GEC	41	60	28	▲2	19	23
機能化学品	126	126	99	62	96	130
全社/調整	▲9	▲6	▲12	▲4	▲ 6	▲ 12
経常利益	179	194	164	64	138	176
GEC	45	97	41	21	39	23
機能化学品	139	119	126	54	99	160
全社/調整	▲5	▲22	▲2	▲10	▲ 0	▲ 7

主要製品群別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2024年度(実績)			2025年度(前回予想)*			2025年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期(予)	通期(予)
売上高	3,881	3,854	7,735	3,600	3,900	7,500	3,616	3,683	7,300
天然ガス系化学品	1,195	1,134	2,329	1,057	1,168	2,226	1,045	1,084	2,130
芳香族化学品	449	463	912	369	424	793	368	386	754
機能化学品	1,866	1,840	3,706	1,722	1,865	3,588	1,740	1,746	3,486
特殊機能材	362	372	735	440	431	871	459	448	907
全社/調整	7	43	51	9	10	20	3	17	20
営業利益	337	170	508	240	220	460	251	188	440
天然ガス系化学品	77	23	100	24	48	73	30	33	63
芳香族化学品	23	2	26	13	14	28	12	4	17
機能化学品	172	94	266	128	103	231	127	88	216
特殊機能材	79	67	146	98	80	178	99	89	189
全社/調整	▲15	▲17	▲32	▲24	▲27	▲51	▲19	▲26	▲46
経常利益	374	228	603	270	230	500	314	185	500
天然ガス系化学品	110	44	155	38	70	109	40	35	75
芳香族化学品	32	17	49	23	14	38	22	6	28
機能化学品	168	110	279	135	91	226	147	77	225
特殊機能材	89	70	159	96	78	174	112	89	202
全社/調整	▲26	▲14	▲41	▲24	▲25	▲49	▲7	▲23	▲31

※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

* 2025年8月7日公表

主要製品群別 2024年度及び2025年度 四半期別推移



単位:億円	2024年度実績				2025年度実績	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,881	2,000	1,950	1,904	1,779	1,837
天然ガス系化学品	565	629	552	582	498	546
芳香族化学品	220	228	254	209	185	183
機能化学品	910	956	949	890	869	870
特殊機能材	182	179	184	187	219	239
全社/調整	1	5	9	34	6	▲ 3
営業利益	157	180	115	55	109	141
天然ガス系化学品	27	49	▲0	24	12	18
芳香族化学品	13	10	29	▲27	6	5
機能化学品	84	88	66	28	51	76
特殊機能材	41	38	33	33	44	54
全社/調整	▲9	▲6	▲13	▲4	▲ 6	▲ 12
経常利益	179	194	164	64	138	176
天然ガス系化学品	26	83	▲5	50	30	10
芳香族化学品	17	14	46	▲29	8	13
機能化学品	90	78	89	20	47	100
特殊機能材	49	40	36	33	52	60
全社/調整	▲4	▲22	▲3	▲10	▲ 0	▲ 7

※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

2025年度 第2四半期 貸借対照表



単位:億円	2025年3月末	2025年9月末	増 減
流動資産	4,602	4,365	▲ 237
現預金	682	607	▲ 74
売掛債権	1,578	1,441	▲ 136
棚卸資産	2,075	2,060	▲ 14
その他	266	254	▲ 11
固定資産	6,594	6,388	▲ 205
有形固定資産	3,665	3,427	▲ 238
無形固定資産	249	244	▲ 5
投資その他の資産	2,678	2,717	+ 38
資産合計	11,196	10,754	▲ 442

単位:億円	2025年3月末	2025年9月末	増 減
負債	4,223	4,098	▲ 124
買掛債務	1,030	839	▲ 191
有利子負債	2,139	2,314	+ 174
その他	1,052	944	▲ 107
純資産	6,973	6,655	▲ 318
株主資本	6,007	5,633	▲ 374
その他包括利益累計額	674	699	+ 24
非支配株主持分	291	322	+ 30
負債・純資産合計	11,196	10,754	▲ 442

→ 株主資本

→ その他包括利益累計額

自己資本比率 58.9% (2025年9月末時点)

2025年度 第2四半期 キャッシュフロー計算書



単位:億円	2024年度 2Q累計	2025年度 2Q累計	増 減
営業キャッシュフロー	355	298	▲57
投資キャッシュフロー	▲496	▲399	+97
フリーキャッシュフロー(差引)	▲140	▲100	+40
財務キャッシュフロー	86	32	▲54
現金及び現金同等物に係る換算差額等	12	▲3	▲15
現金及び現金同等物の増減額(合計)	▲41	▲71	▲30
現金及び現金同等物の期首残高	653	569	▲84
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	6	-	▲6
現金及び現金同等物の四半期末残高	618	498	▲120

参考:各種指標（1）



単位:億円	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度 (予)
設備投資額	350	309	392	423	402	547	646	817	887	820
[上期]	[137]	[139]	[186]	[224]	[158]	[220]	[312]	[380]	[397]	[415]
減価償却費	256	270	274	295	306	319	335	363	346	390
[上期]	[122]	[131]	[135]	[144]	[151]	[158]	[161]	[183]	[168]	[185]
研究開発費	192	189	186	196	199	210	235	256	261	280
[上期]	[96]	[95]	[91]	[94]	[98]	[101]	[111]	[126]	[127]	[124]
年度末人員(人)	8,034	8,009	8,276	8,954	8,998	9,888	10,050	7,918	8,146	8,300
EBITDA*1	894	1,088	976	616	817	1,070	1,050	849	973	920
U&P事業 営業利益	213	314	250	297	374	423	418	406	515	441
ROE(自己資本当期利益率)(%)	12.0	13.6	11.3	4.3	7.1	8.8	8.3	6.1	6.9	-
ROIC(投下資本利益率)*2(%)	9.6	12.1	9.5	3.6	6.2	7.4	6.4	3.3	6.4	3.9
売上高営業利益率(%)	7.9	9.9	6.4	5.6	7.5	7.8	6.3	5.8	6.6	6.0
一株当たり当期純利益 (円/株)	221.83	281.39	257.46	100.50	173.41	232.15	239.08	190.97	228.93	▲87.30
一株当たり配当金*4(円/株) [うち中間配当]	38.00 [16.00]	59.00 [24.00]	70.00 [35.00]	70.00 [35.00]	70.00 [35.00]	80.00*3 [45.00*3]	80.00 [40.00]	80.00 [40.00]	95.00 [45.00]	100.00 [50.00]
総還元性向 (%)	30.1	32.5	27.2	111.4	40.4	34.5	47.9	67.5	74.1	-

*1 EBITDA=経常利益+減価償却費+支払利息 *2 ROIC=(営業利益-法人税等+持分法損益)/投下資本 *3 記念配当10円を含む
*4 当社は2016年10月1日に株式併合(2株→1株)を実施しております。2016年度の一株当たり当期純利益および配当金については、当該併合が行われたと仮定した適及修正による数値を表示しております。

参考:各種指標（2）セグメント別 設備投資額・減価償却費(連結)



単位:億円		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
設備投資額*	天然ガス系化学品	90	60	57	72	GEC	197	192	320	370	349
	芳香族化学品	105	113	146	150						
	機能化学品	81	110	144	146	機能化学品	186	326	286	419	500
	特殊機能材	66	19	23	26						
	その他	5	6	21	27	その他	18	29	39	27	37
	合計	350	309	392	423	合計	402	547	646	817	887
減価償却費	天然ガス系化学品	50	51	55	63	GEC	164	171	179	173	137
	芳香族化学品	85	85	87	95						
	機能化学品	86	91	87	87	機能化学品	130	130	137	168	185
	特殊機能材	30	35	36	38						
	その他	3	5	8	10	その他	11	17	18	20	24
	合計	256	270	274	295	合計	306	319	335	363	346

* 固定資産計上ベース

参考:各種指標（3）



	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期実績	下期予想
為替(JPY/USD)	110	115	134	137	141	148	153	152	146	145
為替(JPY/EUR)	131	130	139	143	153	160	166	162	168	170
原油価格(Dubai) (USD/bbl.)	69	87	102	83	82	82	82	75	69	70
メタノール (USD/MT) アジアスポット平均価格	370	428	375	351	297	324	333	335	309	325
原料キシレン(USD/MT)	780	875	1,105	925	960	910	885	750	695	725
ビスフェノールA (USD/MT)*	2,750 ~3,700	2,100 ~3,150	1,450 ~2,200	1,250 ~1,700	1,150 ~1,400	1,250 ~1,350	1,250 ~1,350	1,200 ~1,350	1,100 ~1,250	1,100 ~1200
ポリカーボネート (USD/MT)*	3,100 ~4,050	2,650 ~3,650	1,950 ~2,900	1,800 ~2,200	1,650 ~1,900	1,700 ~1,900	1,750 ~1,900	1,600 ~1,800	1,500 ~1,650	1,500 ~1,600

* 期間中の最小値および最大値を記載

感応度(概算)

為替(USD) :1円の円高(円安)で、営業利益5億円/年、経常利益5億円/年の減益(増益)

為替(EUR) :1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)

原油(Dubai) :\$ 1/bbl.の上昇(下落)で、3億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず

メタノール :メタノール市況 \$ 1/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

報告セグメント	主要製品群	主要製品(2024年度まで)	主要製品(2025年度以降)
グリーン・エネルギー &ケミカル	天然ガス系 化学品	・メタノール ・メタノール/アンモニア系化学品(アンモニア・アミン類、 MMA系製品、ホルマリン・ポリオール系製品、等) ・エネルギー資源・環境事業	変更なし
	芳香族 化学品	・MXDA、芳香族アルデヒド、ポリマー材料(MXナイロン等) ・キシレン分離/誘導品(メタキシレン、高純度イソフタル酸 (PIA)等)	変更なし
機能化学品	機能化学品	・無機化学品(EL薬品(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカ ル)、過酸化水素等) ・エンジニアリングプラスチック(ポリカーボネート/シート フィルム、ポリアセタール等) ・光学材料(光学樹脂ポリマー、超高屈折率レンズモノマー 等)	変更なし*
	特殊機能材	・電子材料(半導体パッケージ用BT材料等) ・脱酸素剤(エージレス®等)	・電子材料(半導体パッケージ用BT材料等) ・生活衛生ソリューションズ製品* (脱酸素剤:エージレス®等) (環境衛生薬品:ダイヤパワー等)

* 2025年4月の生活衛生ソリューションズ事業部の設立に伴い、無機化学品のうち環境衛生薬品(医療機器洗浄、飲料容器殺菌、公害対策薬剤)は特殊機能材の主要製品へ移動しました。

- 2025年度第3四半期 決算発表
2026年2月10日(火) 15:30
- 2025年度第3四半期 アナリスト・機関投資家向け 決算説明会
2026年2月10日(火) 時間未定

※上記予定は都合により、予告なく変更となる可能性があります。

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社
CSR・IR部 IRグループ

TEL 03-3283-5041

URL <https://www.mgc.co.jp/>



IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。

